

## 再び濱松市民諸賢に訴ふ

我が相愛會の主義主張に就ては本月二十一日附で配布した印刷物に明示してありますので市民諸賢は既に御理解と御同情を下さつた事と信じて居りますから、再び繰り返すの必要は無いと存じますが、吾々は本會の誠意の有る處を徹底せしめたいとの考へから、再び同様意味を述べ併せて「鮮人勞働總同盟」とか云ふものゝ正體を説明し且つ水平社一部の諸員に一言したいのであります。

### 曩に配布した印刷物の要旨

十八日夜の日本樂器爭議團本部に於ける我々相愛會々員と爭議團員との間に勃發した亂闘に就いては多くの日刊新聞が事實の真相を傳へず虚報或は誤報をしたため自然市民諸君の大多數は本會の立場を誤解して居らるゝこと、思ひます故に本會は茲に右事實の真相を發表すると同時に本會の主義精神を述べて些か御考慮を煩はたいと存じます。

日本樂器爭議團中には立花春吉と内地名を名乗る鮮人の一人が参加して居たのであります、この一事は些細なやうではあります、常に本會が歩んで来た不良鮮人の善良化即ち窃盜擄り或は家賃米代其他の不拂者に對して徹底的糾弾を行ひ、内地人諸君に愛して戴かうと云ふ本會の精神から見ますと甚だ遺憾に考へましたから、十七日晝夜二回に亘つて立花春吉を爭議團より脱退方を求めんとて爭議團を訪れたところ「幹部も責任者も居らぬ」とて全然拒絶したのであります、我々は前後二度の門前拂らひにもこりず更に三度目の面會を求めやうとて鴨江觀音の運動會場へ行き幹部らしい一團員に爭議團長の在否を尋ねた處、「本部に居る」との話してありますから、その團員と一緒に自働車で爭議團本部へ赴いたのであります。然るに右團員は本部に着くと直ちに二階へあがつたきり姿を見せないの途方に暮れて居た折柄、運動會場を引揚げて来た數百名の一團中本澤爭議團長（後から判つた）が傲慢な態度で「貴様は何者だ」と詰問しました、それでこの人が「爭議團の責任者だナ」と直観した我々は初めからそうではありましたが、一層緊張した紳士的態度で訪問の意を傳へてひたすら諒解を得ることに努めたのであります。

それにも拘らず本澤爭議團長（評議會幹部）は「朝鮮人のくせに生意氣だ出て行け」と暴言を吐きながら東京總本部副會長朴春琴氏の胸倉に手をかけて追出そうとしかけました、そこで一行中の一人が「副會長に手を出すと何事だ」と怒つて、本澤の頬を打ちました、茲に於て計らずも五百餘名の爭議團員と我々五名との間に大亂闘が始まり、爭議團本部は大修羅場と化したやうな次第でありました。

或る新聞紙の如きはこの事件について暴漢が竹槍や棍棒の類を携へて乗り込んだとか得物をもつて叩いたとかと書いて居りますが、嘘の皮も甚だしいものです。又樂器會社の意を受けて爭議團切崩しの行動をした云々の取沙汰も全然事實無根の風説でありまして、本會の甚だ迷惑とするところであります。

我々は寔に豫期せぬこの亂闘によりまして附近町民各位をお騒がせ申し、且つ例へ一時たりとも市民諸君に對して不安の念を抱かせたことは衷心からお詫申上げる次第であります。併し我々も身に降りかゝる火の子は避けねばなりません、又本會の主義精神に反する立花春吉の行動は飽くまでも是れを正さねばなりません、それが内地人諸君から愛して戴かねばならぬ我々鮮人の義務であります。

賢明なる濱松市民諸君

どうか我々の意のあるところをお汲み下さいまして行末永く相愛會を、鮮人等を愛し下さるやう伏してお願申上ります。

### 鮮人勞働總同盟なるものゝ正體

今回爭議團體に應援として朝鮮勞働總同盟なる名義を名乗つて少數の鮮人が加擔したと云ふ事は甚だ遺憾に堪へないのであります。即ち震災當時誤傳に基く惡印象は今尙一般内地人の腦裡に一種憎惡と不安の念を残されて居るのであります。之れが爲め彼の三重縣本の本町事件の如き不祥事を見るに至つたのであります。私等は此の忌むべき印象を一掃して一般鮮人の利益を謀り眞の内鮮融和を求めたいと云ふ希望に對し彼